

参考資料5

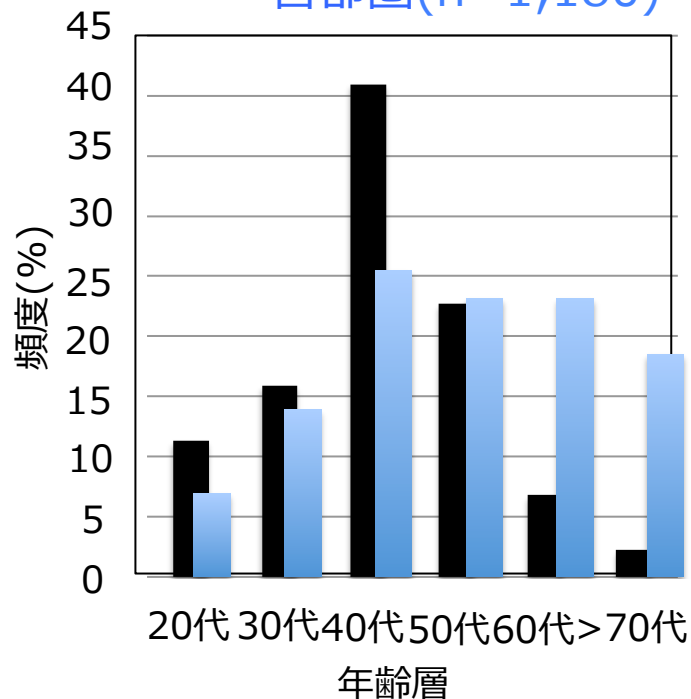
住民の原子力災害時のリスクコミュニケーション
に関する意識調査結果概要

原子力・放射線について知識がありますか？

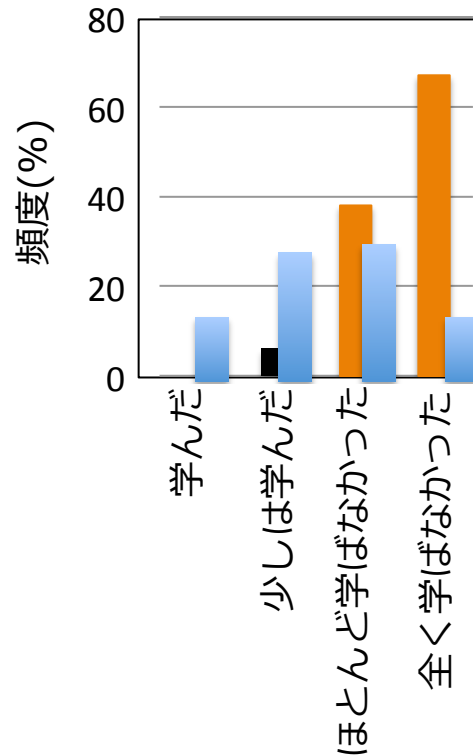
回答者の年齢構成

福島県(n=1,209)

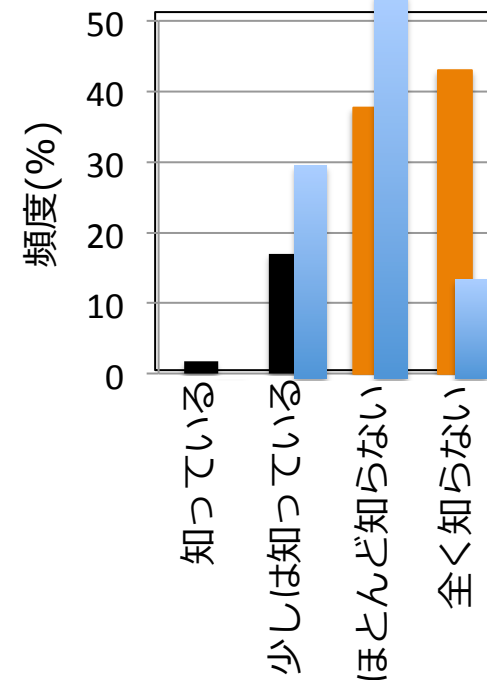
首都圏(n=1,180)



原子力や放射線に関する教育を受けたかどうか？



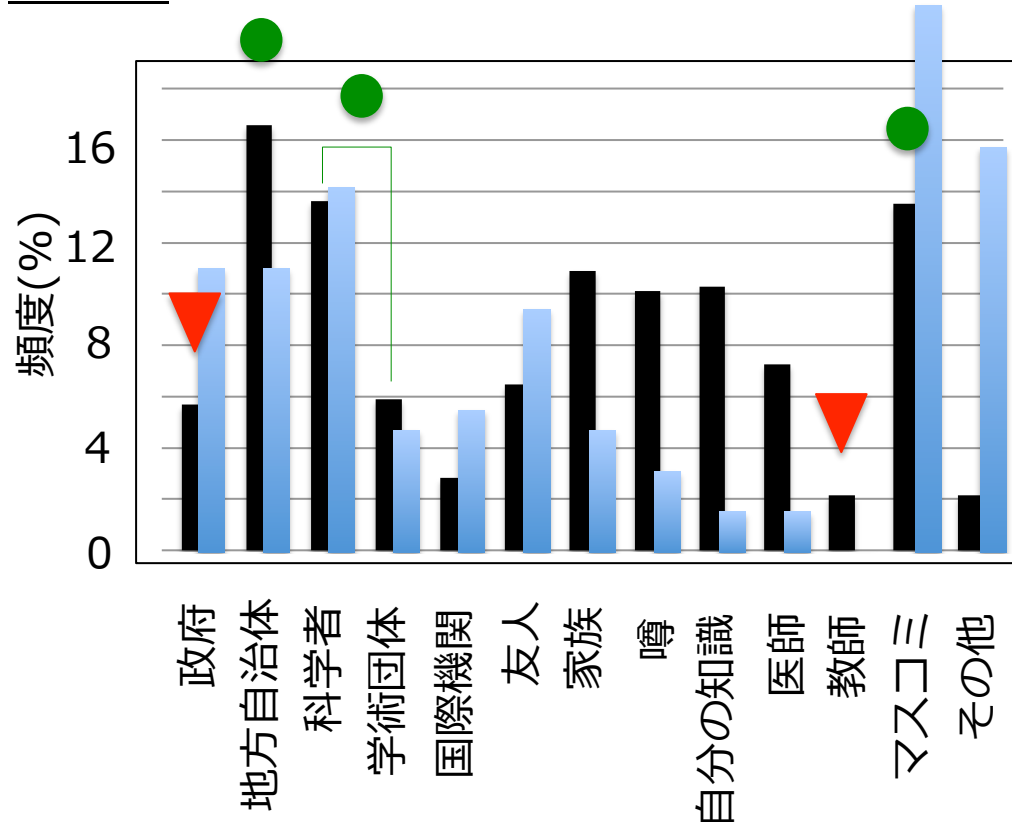
原子力や放射線のことを知っているか？



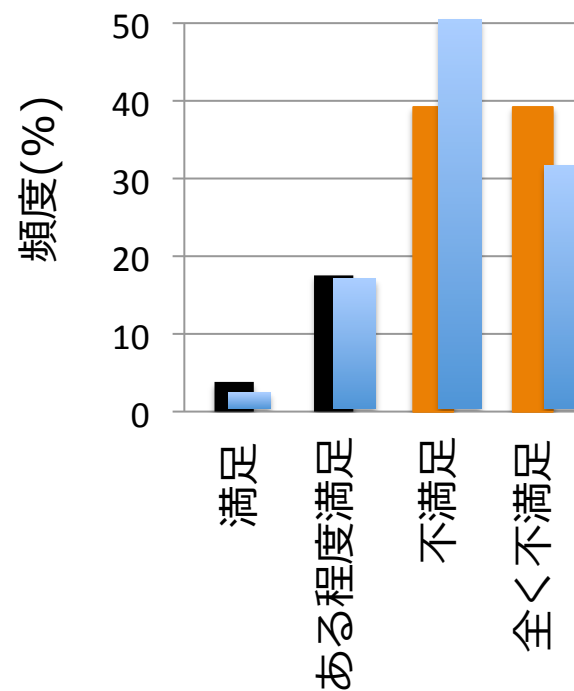
多くの国民は原子力や放射線に関する知識をほとんど持たない⇒**現実を論理的に考えられない**

福島原発事故に関する情報源とその満足度

情報源



情報量に対する満足度



○信頼できた情報源

1. 科学者(30%)
2. 地方自治体(16%)
3. 医師(7%)
4. マスコミ(6%)
5. 家族(6%)

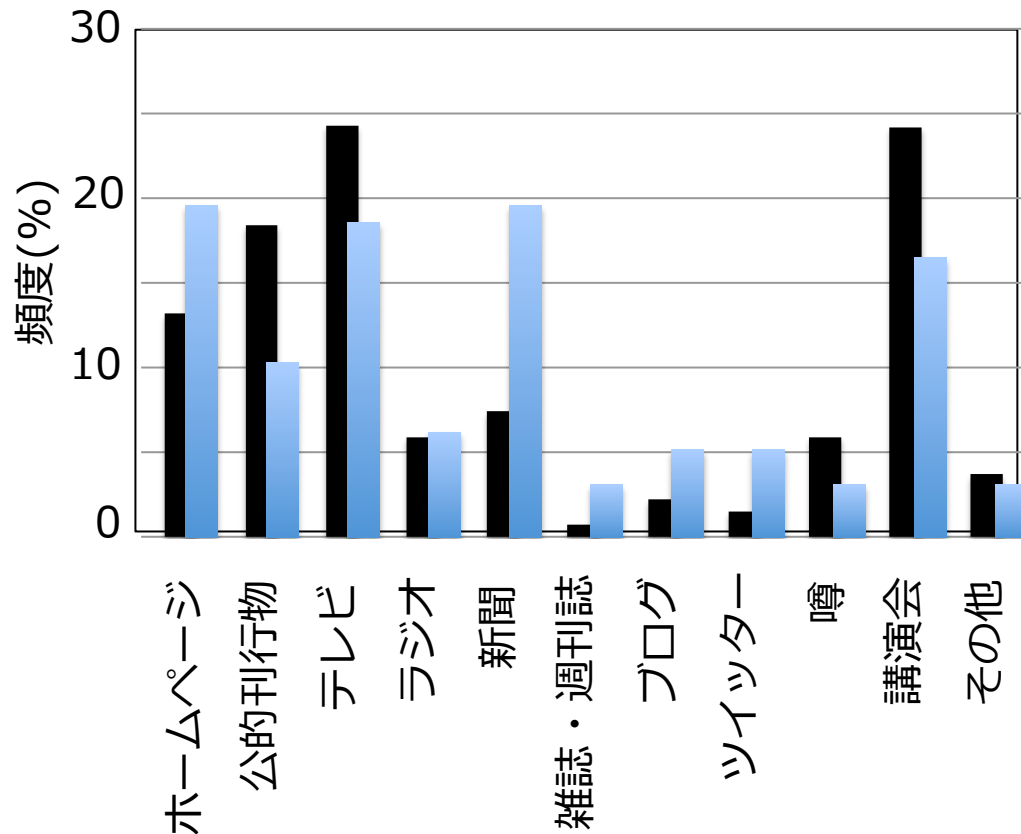
○信頼できなかった情報源

1. 政府(37%)
2. マスコミ(22%)
3. 地方自治体(10%)
4. 医師(8%)
5. うわさ(8%)



緊急時に最も信頼されるべき**政府や自治体**が全く**信頼されなかった**

情報を入力した手段とその信頼度



顔が見えない
情報源は
便利でも信頼
されない

○信頼できた情報媒体

1. 講演会 (13%)
2. テレビ (10%)
3. ラジオ (10%)
4. 公的刊行物 (8%)
5. その他 (7%)

○信頼できなかった情報源

1. ツイッター (56%)
2. ブログ (48%)
3. テレビ (14%)
4. ホームページ (13%)
5. 噂 (8%)

福島原発事故後の住民の不安感はなぜ今も続くのか？

- (1) 政府や地方自治体が発する情報に納得いく説明がない。
- (2) 科学情報に関する**科学者の意見が180度違う**。
- (3) **国民**の大半が放射線について十分な知識を持たなかった。
- (4) **情報が氾濫**し質を判定するのが難しい。
- (5) そのために「何も信じられない」という一種の**社会崩壊状況**に陥っている。

○住民は、政府、科学者およびマスコミのすべてに対し、情報提供と政策に不信感を持っている。

これらを一度に解決することが必須